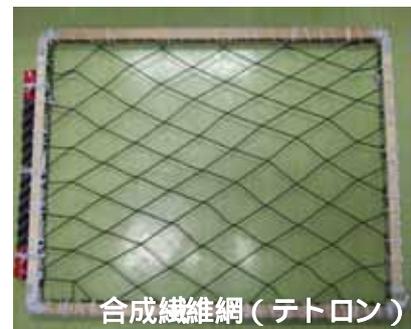


参考資料

研究の方法

- 白色と茶色の2種類の生分解性ネットと、比較対象として合成繊維網(テトロン)を用意し、それぞれの網の周囲を木枠等で固定します。



- 生分解性ネットと合成繊維網は、写真のような形で組み、姿勢安定用の重りを下部に取り付けて、平塚沖総合実験タワーに吊り下げる形で設置します。



- 2ヶ月に1回程度、付着生物の状況(写真撮影による表面積の解析)と湿重量を計測します。
- 調査終了後、生物が付着した生分解性ネットは、ローラー等で粉碎し、ほうれん草などのプランター野菜栽培に肥料として使用して効果を検証します。

平塚沖総合実験タワー

平塚市袖ヶ浜から沖合約1 km、水深約20 mの地点に設置された平塚沖総合実験タワーは、データ処理装置を完備した陸上施設と合わせて構成されています。この施設は、2009年7月に東京大学が(独)防災科学技術研究所から引き継ぎ、「世界の海に貢献する海洋国日本」をコンセプトに、海洋観測、海洋機器開発及び人材の育成など、様々な海洋関連の課題解決に取り組んでいます。